

新型コロナウイルス 第二回

オリンピック開催の一年延期、首都圏の感染拡大によるロックダウンの可能性、資金繰り支援の窓口パンク、政府の慌ただしい対応（巨額・広範・緊急）、有名芸能人の感染による死去等々、我々が、かつて経験したことのない時代に突入したことを印象付ける出来事が連発しています。

こういう時に、巨大地震が日本を襲えば、まさに日本は沈没するかも知れません。

大切なことは、自分の経験に頼らないことです。巷間の噂に振り回されないことです。社長の正しい判断は、“歴史に学ぶ”ことです。

自然現象一つでも、かつて、富士山の大噴火や阿蘇の大噴火もありました。

八十年前には、第二次世界大戦もありました。

九十年前には、世界大恐慌もありました。

疫病では、何度も世界を震え上がらせたのです。

要するに、我々が、経験したことがない事も、歴史を見れば、何度も何度も、繰り返し起こったのです。

社長、先ず、落ち着いて対応する事です。社長が、狼狽えていては、解決できることも解決しません。社員が、社長の態度や判断を、恐る恐る見ているのです。

その時に社長が“ニコニコ笑顔”で、“大丈夫！心配せずに、私に付いてきてくれ！”と言えるかどうかです。

『千万人と雖も吾往かん』と言った孟子が同時に別面において『豈に綽々余裕有らざらんや』と言って余裕というものを論じておりますが、こういう乱世になればなるほど、われわれは余裕というものをもたなければならない。余裕があって初めて本当に物を考えることも出来る、本当に行動を起こすことも出来るわけです。殊に善人は神経が細いから、尚更本当の意味の余裕が必要であります」と、安岡正篤先生が、教えて下さっています。

実務家の我々は、次の手、更に次の手を、いち早く打っていくことです。

資金の手当ても、現状に甘んずる事なく、更に追加を手当てすることです。

いつまでも、暗い夜は続きません。朝の来ない夜はありません。

次の好況に向けて、ポールポジションを取る事です。

伏すこと久しきは、飛ぶこと必ず高し！

社長、今こそ、共に正しい判断基準を持ち、明るく生き活きと生きることです。

大事な社員さんを守り、命を守り、日頃の経営理念の実践をして参りましょう。



今月のポイント

善い師、善い本を読み

人格を磨いていこう。